

東京2020大会における持続可能性の取り組みについて

※東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会HP
及び資料「持続可能性大会前報告書」より抜粋

1 オリンピック・パラリンピックと持続可能性

オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界最大規模のスポーツイベントであり、その影響は環境・社会・経済に、また開催国のみならず世界にまで広く及ぶことから、持続可能性に配慮した大会の準備・運営が求められる。

- ・「持続可能性に配慮した運営計画」策定
- ・「持続可能性大会前報告書」公表

2 東京2020大会の持続可能性コンセプト

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

3 東京2020大会の持続可能性の5つの主要テーマ



大気・水・緑・生物多様性等
City within Nature/Nature within the City
(自然共生都市の実現)

水資源の有効活用や在来の植物による競技会場の緑化などにより、自然共生都市の実現に貢献します。



気候変動
Towards Zero Carbon
(脱炭素社会の実現に向けて)

脱炭素社会の実現に向けて、可能な限りの省エネルギーや再生可能エネルギーの利用などを進めていきます。



資源管理
Zero Wasting
(資源を一切ムダにしない)

3R(リデュース・リユース・リサイクル)を徹底し、資源を一切ムダにしない大会運営を目指します。



人権・労働、公正な事業慣行等
Celebrating Diversity
(多様性の祝祭)

大会に関わるすべての人々の人権が尊重された大会を目指し、「ビジネスと人権に関する指導原則」に則った準備・運営を行います。



参加・協働、情報発信(エンゲージメント)
United in Partnership & Equality
(パートナーシップによる大会づくり)

多くの方々の参加・協働により、誰もが主役の開かれた大会を創るとともに、積極的な情報発信により、持続可能性への理解を高めていきます。

4 主な取り組み



**気候変動
主な取り組み**



電気自動車の導入

大会使用車両に
・燃料電池自動車(FCV)
・電気自動車(EV)
・プラグインハイブリッド(PHV)
を導入し、CO2排出の回避・削減に努める



**資源管理
主な取り組み**



再生材活用の取り組み
・聖火リレートーチ(アルミ建築廃材)
・オリンピック聖火ランナーユニホーム(ペットボトルのリサイクル素材)
・入賞メダル(リサイクル金属)
・表彰台(使用済プラスチック容器)



**大気・水・緑・生物多様性等
主な取り組み**

競技会場等の緑化
・オリンピックスタジアムほか



**人権・労働、公正な事業慣行等
主な取り組み**

大会運営時における
・ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の実現
・多様性に配慮した料理など



**参加・協働、情報発信(エンゲージメント)
主な取り組み**

参加型プロジェクト
・メダル(小型家電回収)
・表彰台(使用済みプラスチックの再生利用)

環境の取り組みについて

オリンピック・パラリンピック
推進特別委員会資料
令和2年11月11日
都市環境部環境課

1. 地球温暖化防止対策の推進

(1) 事業目的

品川区環境基本計画（平成30年3月策定）で温室効果ガス削減目標を設定し、「低炭素な暮らし・仕事・まち」の実現を目指す。

(2) 目標値および実績値

①目標値

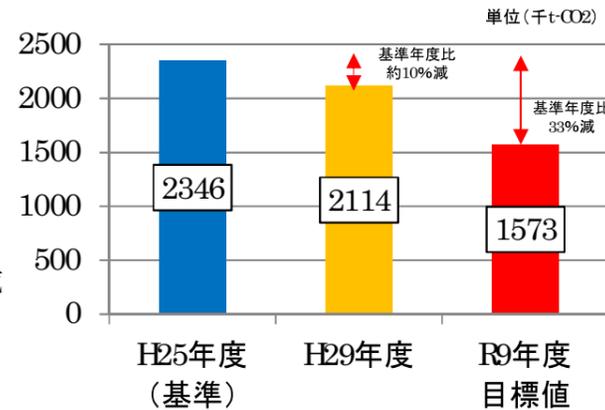
- 平成25年度比で令和9年度に33%減
（環境基本計画終了年度目標）
- 平成25年度比で令和12年度に40%減
（長期目標）

②実績値

- 平成25年度比で平成29年度に約10%減

(3) 事業内容

- ①家庭、事業所、区施設における省エネルギーの推進
- ②家庭、事業所、区施設への低炭素なエネルギーの導入促進
- ③暑さ対策



2. SHINAGAWA“もったいない”プロジェクト

(1) 事業目的

日本発の世界共通語“もったいない”の精神を普及するため、「食品ロス削減」をテーマに啓発事業を展開することで、区内の環境意識の向上を図り、魅力あるまちづくりにつなげる。



フードドライブ

(2) 事業内容

① SHINAGAWA “もったいない” 推進店との連携

食品を大切に使用している区内の飲食店・小売店を「SHINAGAWA “もったいない” 推進店」として認定する。令和2年10月末現在152店舗を認定。
(事業開始：平成27年度／登録目標：150店舗)

②フードドライブの実施

各家庭で賞味期限・消費期限をチェックし、使わないまたは使い切れない食品を、イベント開催時等で回収する。集まった食品は社会福祉協議会等へ寄付する。

平成29年度～令和元年度：寄付者累計184名、総数657点、総重量188.1kg

③その他普及啓発事業

- 区内保育園および幼稚園等に啓発紙芝居を配布（平成30年度、令和2年度）
- 区内保育園、幼稚園、小学校、推進店、商店街に啓発ポスターの配布（令和元年度）
- 民間団体と協働したワークショップの開催（令和元年度）

3. 使い捨てプラスチック製品の削減

(1) 事業目的

世界的な“脱プラスチック”の流れのなか、区民に対し、プラスチックの環境影響について考える機会を提供し、品川区環境基本計画の共通目標である「日常に実践する人」を育てていく。



モールドどんぶり

木製スプーン オリジナルエコバッグ

(2) 事業内容

①区主催イベントおよび区民まつりでの使い捨てプラスチック削減

ECOフェスティバルおよび一部の区民まつり会場にて使用されるプラスチック製容器類をモールド容器や木製スプーン、紙コップ等に置き換えた。（元年度～）

②オリジナルエコバッグの配布

7月1日に開始したレジ袋有料化に合わせ作成し区民へ配布する。

- 戸越銀座、武蔵小山、青物横丁、中延、荏原町、北品川の各商店街 計9,800枚
- 環境講演会（令和3年2月27日実施予定）にて来場者に配布予定 約300枚

③マイボトルの普及啓発

令和3年度以降、イベント会場でのマイボトル用給水スポットを設置するとともに、庁舎や区有施設等での設置を検討する。

④各課で実施する会議等でのペットボトル入り飲料の使用削減について依頼

4. しながわECOフェスティバル2021の開催

(1) 事業目的

区民が楽しみながら環境に対する関心を高め、学び、行動に繋げる契機とするために、環境活動推進会議、出演団体により構成されるイベント実行委員会を主体として啓発イベントを開催する。



ECOフェスティバル

(2) 事業内容

①開催日時 令和3年5月30日（日）午前10時～午後3時

②会場 しながわ中央公園、中小企業センター

③主催内容

- ・展示ブース ・飲食ブース ・フリーマーケット
- ・ステージアトラクション ・グラウンドステージ・アトラクション
- ・ソーラー工作教室 ・しながわECOクイズラリー

④実績

(令和元年度)	来場者36,000名、参加団体数99団体
(令和2年度)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(仮称)品川区立環境学習交流施設の整備について

1. 施設概要・機能

■ 施設の目的

地球規模の温暖化を背景に、国内では環境に対する学びへの需要が高まっている。未来をつくる担い手である子どもたちと、子どもを支える人たちをターゲットに、環境を体感して学べる施設を設置する。

■ 施設のキャッチコピー・ターゲット

つなぐ つづける つくりだす ~エコなミライへ~

第1ターゲット

未来をつくる子どもたち

第2ターゲット

子どもを支える人たち

■ 運営面・建物面における新長期基本計画に対応した施設の機能

	長期基本計画「安全」10年後のめざす姿	施設の機能
運営面	環境意識が向上・環境活動の活発な取り組み	体験学習機能/情報発信機能/交流・連携機能
建物面	環境に配慮した建物の増加	省エネ・創エネにつながる機能 (ZEB建物)

2. 建物計画

■ 立地場所 戸越公園内(豊町2-1-30)

■ 構造・規模 鉄骨造 地上3階建て

■ 延床面積 1,912.74㎡

■ 計画の特徴

- ①戸越公園の景観と調和した外観計画
- ②ZEBを実現する設備計画
- ③区と交流・連携する自治体および多摩産材の活用



外観イメージ (公園北側)

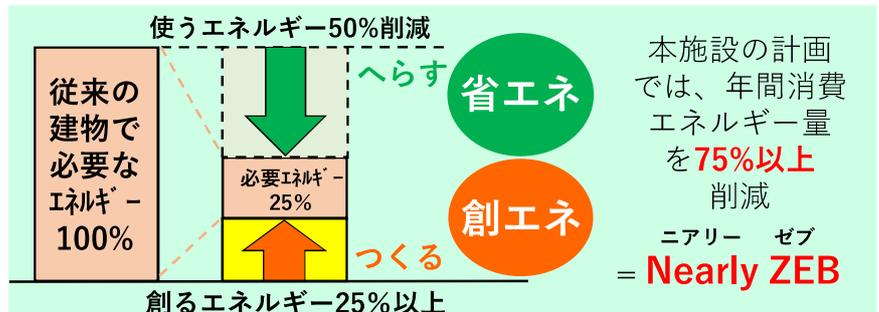


外観イメージ (公園南側)

■ 本施設のZEB計画について

ZEB (ゼブ) とは…

省エネによって使うエネルギーを減らし、創エネによって使う分のエネルギーをつくることで、施設のエネルギー消費量を正味ゼロに近づけた建築物



3. 展示計画

メインテーマを「温暖化対策」とし、環境への興味・関心につながる体感型展示を展開する。

1 大型映像装置による展示

自分の行動を通して都市と自然のバランスを考える疑似体験



2 時間軸で環境を捉える常設展示

時間軸 (1秒・1日・1年・10年) のスケールで環境を身近に捉え考える



3 自ら答えを出す参加型展示

展示を通じての気持ちや感想をメッセージや絵などで発信する



4. 今後のスケジュール

令和2年11月現在

令和3年1月～

令和4年2月

令和4年4月

建物・展示物設計完了、事業内容検討作業等実施中

本体工事および展示物製作・設置

建物竣工

開設

集団回収事業について

1 事業目的

資源の有効活用とごみ減量を図るため、区民のリサイクル活動を推進し、地球環境を守る資源循環型社会をめざす。

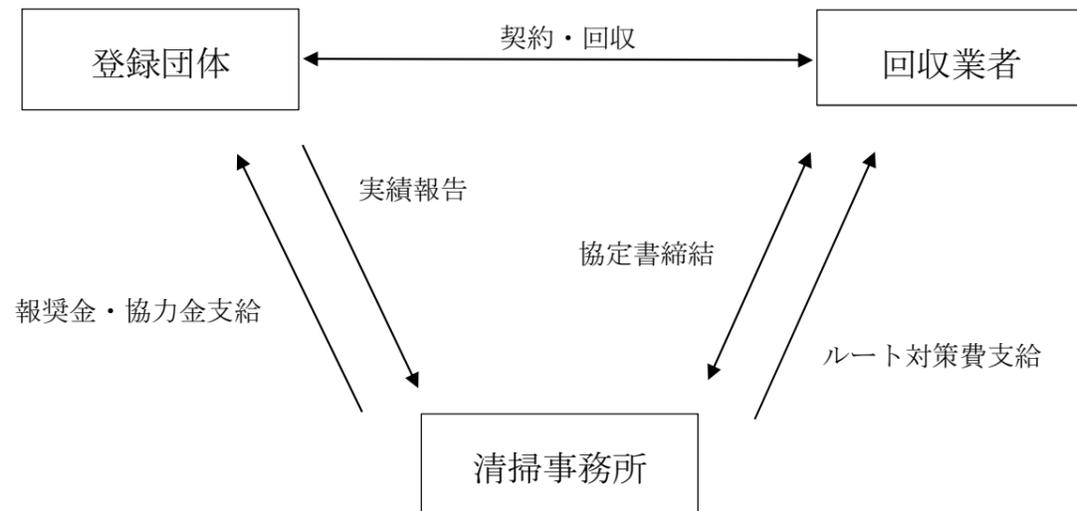
2 事業概要

町会・自治会、マンション管理組合などの団体が、家庭から出る古紙類などの資源を資源回収業者に引き渡す自主的なリサイクル活動に対し、区はその取り組みを支援している。

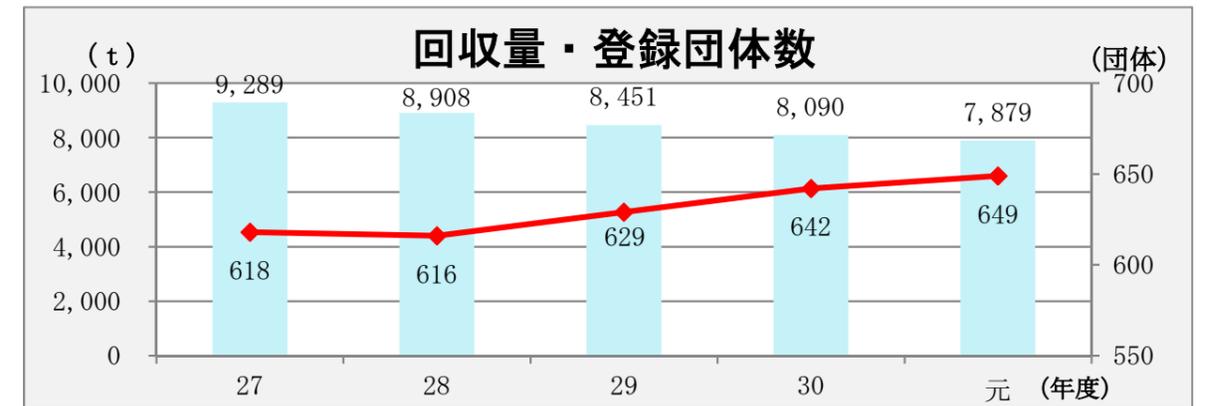
3 支援内容

- ・報奨金の支給
回収団体に対し回収実績に応じて1kgにつき6円を支給。
- ・協力金の支給
雑がみを回収した団体に対し、1カ月につき1,000円を支給。
- ・用具の支給
消耗品（PPひも・軍手・資源持ち去り防止テープ・標識旗等）支給。
- ・感謝状の贈呈
優良リサイクル団体に感謝状等の贈呈。
- ・ルート対策費
回収業者に対し、古紙の市況価格が一定額(7円)を下回った場合に支給。

4 集団回収の流れ



5 実績（回収量と登録団体数の推移）



【品目別回収量】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
新聞	4,785	4,381	3,912	3,471	3,108	1,207
雑誌	2,067	1,980	1,907	1,822	1,822	945
段ボール	2,090	2,210	2,274	2,364	2,481	1,450
紙パック	28	25	23	21	19	12
雑がみ	—	—	—	70	116	64
その他紙類	62	57	58	56	45	17
古着	42	39	57	58	65	24
缶	200	200	205	213	212	112
その他	15	15	15	15	11	0.1
総回収量	9,289	8,908	8,451	8,090	7,879	3,831

※表の数値は端数処理のため、内訳と合計が一致しない場合があります。

※雑がみは平成30年度から開始。

※令和2年度の数値は4月～9月の数値です。

【集団回収に係わる経費】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
報奨金および協力金	55,682,784	54,128,454	51,180,156	50,544,720	51,170,086	25,423,874
ルート対策費	0	0	0	0	0	6,922,121

※令和2年度の数値は4月～9月の数値です。

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」について

1 経緯

- ・品川区では、小型家電リサイクル法が施行された平成25年度より、区施設で月2回実施している拠点回収にて、携帯電話、デジタルカメラ等の使用済小型電子機器等の回収をおこなってきた。
- ・使用済小型電子機器等から金・銀等のリサイクル金属を回収し、東京2020オリンピック・パラリンピック大会のメダルに活用する「TOKYO2020 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」が、大会組織委員会主催で、平成29年4月から31年3月までの2年間、実施された。
- ・品川区でもこの趣旨に賛同し、プロジェクトに参加して小型家電のリサイクル推進を図った。

2 実施方法

- ・拠点回収で回収した使用済小型電子機器を、大会組織委員会の協力事業者に引き渡す。
- ・プロジェクトへの参加と同時に、区ホームページ、広報しながわ、ごみ・リサイクル通信にて周知を図るほか、オリンピック・パラリンピック準備課と連携して、イベント時や窓口等へ回収ボックスの設置を行った。

<プロジェクト・ロゴマーク>



<回収ボックス>



3 実績

【使用済小型電子機器等の回収量の推移】

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度 (～9月末)
回収量	2,440 kg	2,349 kg	2,629 kg	3,589 kg	3,813 kg	1,716 kg

※29～30年度の回収分をメダルプロジェクトに提供した。